



トルコギキョウの冬春出しでの 夜間変温栽培による重油削減効果



‘レイナホワイト’

表 夜温管理の違いが収穫および切り花品質に及ぼす影響^{z)}

試験区	平均 収穫日 ^{y)} (月/日)	切り花品質	
		切り花長 (cm)	有効花蕾数 (個/株)
日没後昇温区	2/10	73.9	5.4
夜明前昇温区	2/17	74.9	4.7
夜温一定区【慣行】	2/16	82.1	5.1

z: 播種後10℃暗黒下で21日間冷蔵後、昼温25℃夜温15℃で53日間冷房育苗した苗を2010年9月24日に定植して、11月2日から温度処理を開始。日没後昇温では17:00～20:00を20℃、20:00～8:00を10℃に設定。夜明前昇温では17:00～3:30を10℃、3:30～6:30を20℃に設定。夜温一定では17:00～8:00を15℃に設定。なお、昼温は25℃換気。
y: 第4花および各側枝の小花が同時に開花した時点で収穫した平均日。

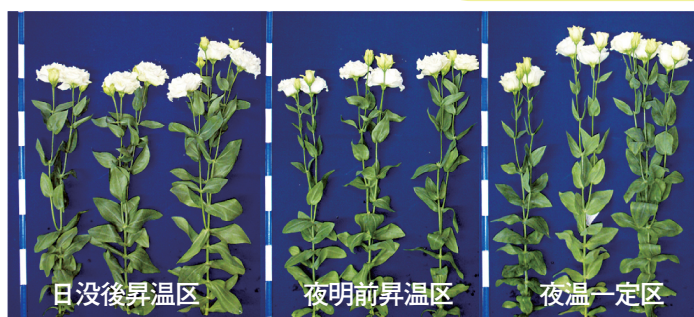


写真 各試験区の切り花の様子

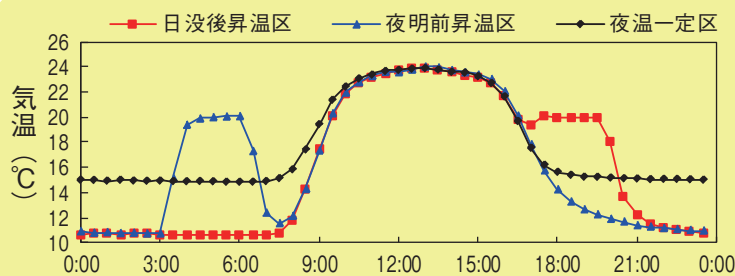


図1 試験区ごとのハウス内の1日の気温の推移(12-2月平均)

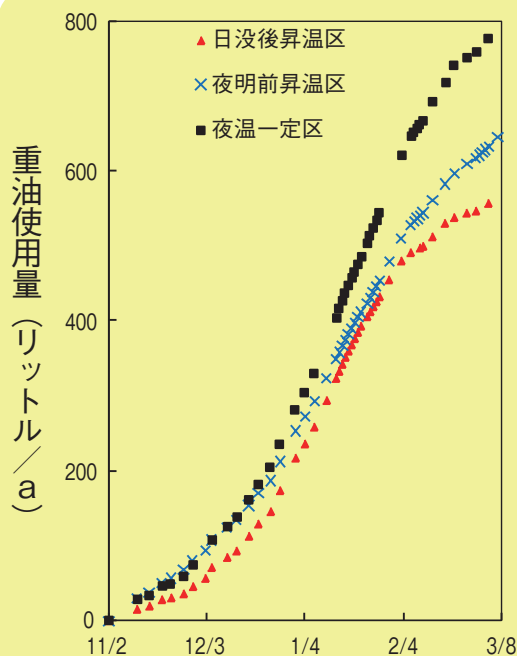


図2 1aあたりの重油使用量(累積)

トルコギキョウの冬春出し栽培では、切り花品質を高めるため夜温15℃前後で加温栽培されていますが、近年の重油価格の高騰により農家経営が圧迫されていることから、省エネ加温技術の確立が求められています。

そこで、冬春出し栽培での切り花品質を維持しつつ重油使用量の削減を目的に夜間変温栽培を検討しましたのでご紹介します。

‘レイナホワイト’を播種して21日間種子冷蔵した後、53日間冷房育苗を行い、2010年9月24日に定植しました。試験区は「日

没後昇温区」、「夜明前昇温区」および「夜温一定区」を設けました(詳細は表に記載)。

その結果、冬春出し栽培の‘レイナホワイト’では、日没後3時間20℃に昇温し、その後10℃の低夜温で管理することで慣行に比べて重油使用量を30%削減することができ、なおかつ商品として必要な70cm以上の切り花長と慣行と同等の有効花蕾数を十分確保できることが明らかになりました。

今後は、実際の栽培現場への普及を目指して現地実証試験の支援を行います。

(花き担当 門田太志 088-863-4918)